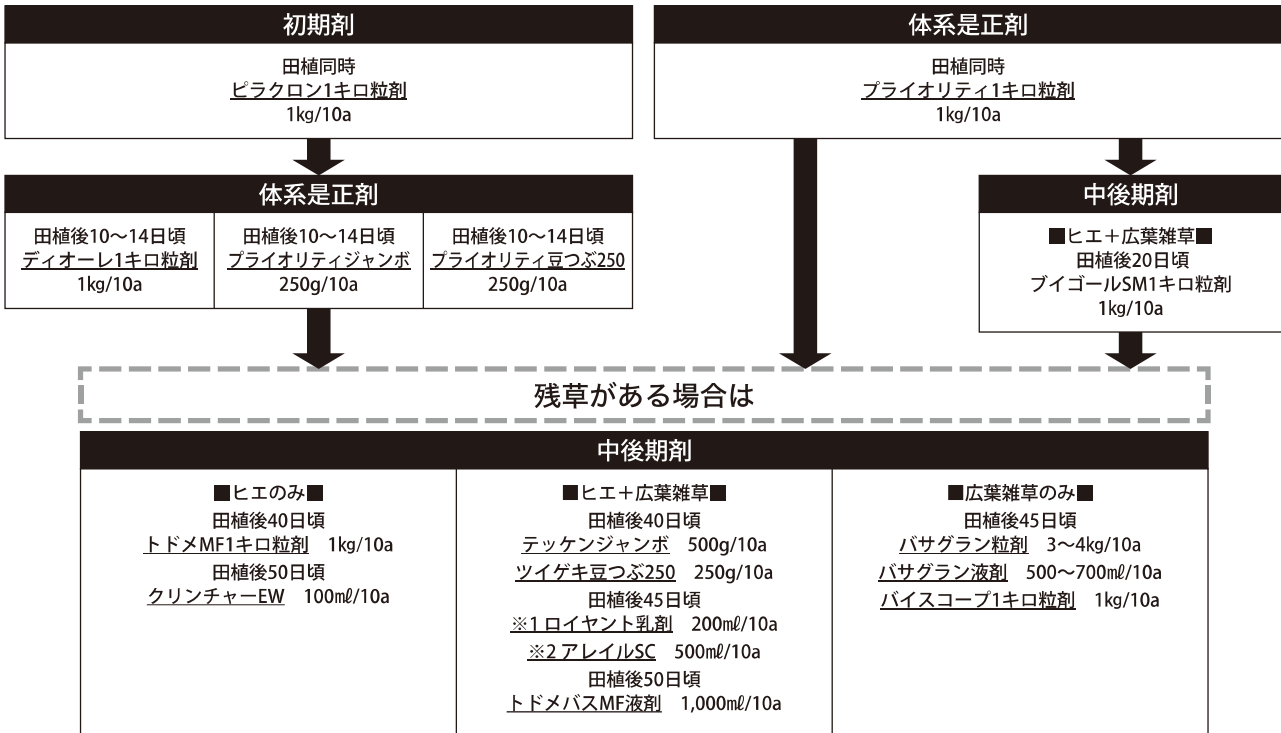


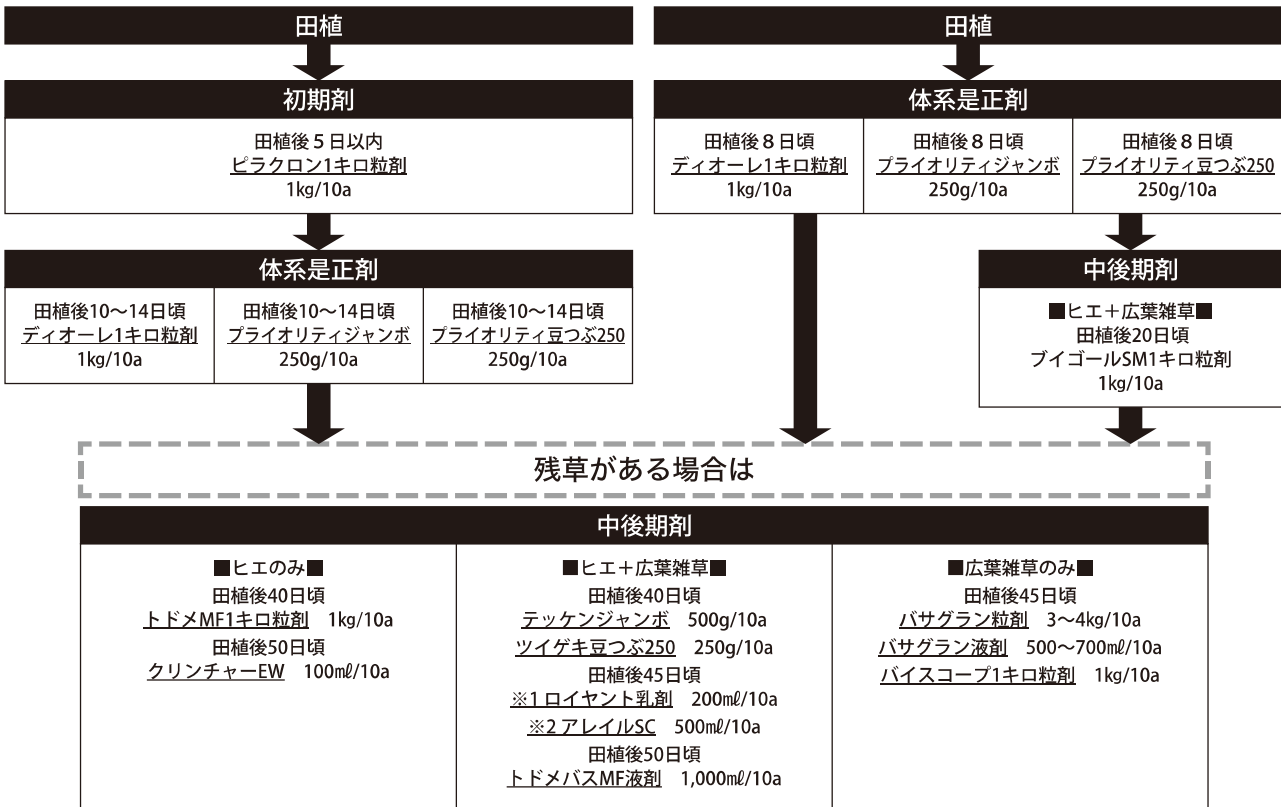
除 草 体 系（例）

移植編

★田植同時に散布する場合



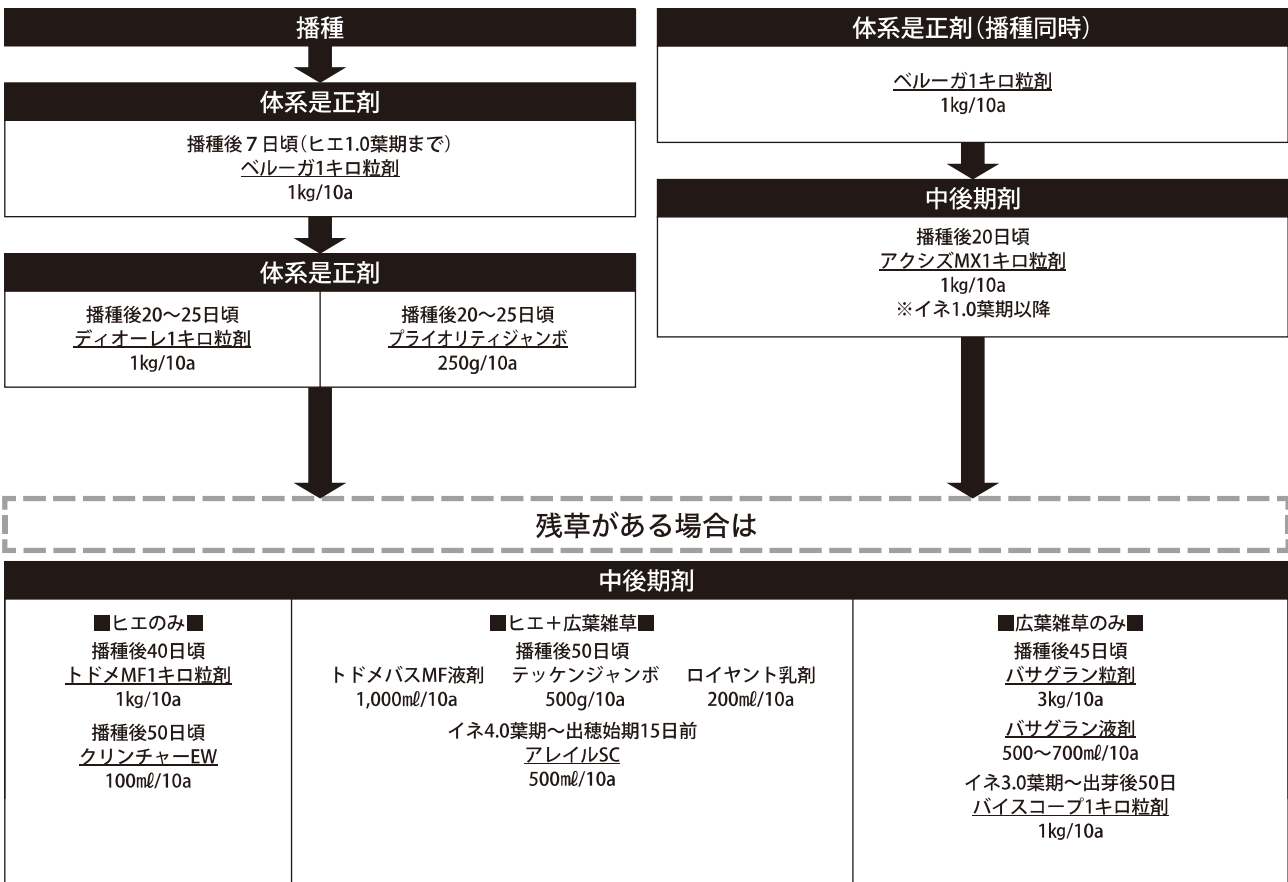
★田植後に散布する場合



※1 ロイヤント乳剤：ホタルイ・クログワイには効果がない
※2 アレイルSC：イボクサ、アゼナには効果がない

直播編

★カルパーコーティングの場合
(加温処理を実施していない場合)



藻類及び表層はく離対策

近年、管内水田で藻類（アオミドロ）と表層はく離が多発している。藻類と表層はく離は、「水」「温度」「栄養分（窒素・リン）」を好むため、5月以降の水田で発生しやすい環境がすべて揃う。繁茂した状態で除草剤を散布すると効果が減少してしまうため、以下のとおり、予防と対策を講じる。

【予防・対策】

①(藻ができる前) 水温が上昇しすぎると、藻が発生しやすくなるため、水の入れ替えを行い予防に努める。
(初期剤としてピラクロン粒剤を使用すると効果的)

↓

②(藻が発生した場合) 落水し、水がなくなるまで田干しする。

↓

③(藻が残る場合) モゲトン粒剤を散布する。

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法	
モゲトン粒剤	ウキクサ類 藻類	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期(但し、収穫45日前まで)	移植	10a当たり 2～3kg	3回以内	湛水散布
			直播	10a当たり 1.5～2kg		

※使用前に必ず容器のラベルを確かめてから使用する。

〈モゲトンの特徴〉

- ・晴天の日の午前中散布が効果的。
- ・藻にかかるように散布する(スポット処理が可能)。
- ・他の除草剤との併用が可能(モゲトン散布後2～3日後に、除草剤散布で除草剤効果が安定する)。

モゲトン散布時(5/27) モゲトン散布後(6/3)



(写真：アグロカネショウ株式会社提供)